

令和8年度 世羅町立世羅中学校教育研究計画

1 めざす生徒像

校訓	学校教育目標	目指す生徒像	育成を目指す 資質・能力
自主	たくましく しなやかに	○自ら考え、課題に向かい、行動できる生徒	主体性
友愛		○集団の一員として他者と関わり合う生徒	協働性
創造		○豊かな発想で、新たな価値を生み出す生徒	創造性

2 研究主題

つまずきを照らす学びの探究者の育成

～ 生徒理解を基盤とした対話的支援による学びの深化 ～

3 主題設定の理由

本校では、一人ひとりの生徒が自分の力を信じ、学びの中で主体的に考え、成長してほしいと考えている。こうした教育の理想を実現するためには、学習者が迷いやつまずきを抱えた時に、それを見逃さず、適切に支援できる教育環境が不可欠である。

そこで、本研究では、「つまずきを照らす学びの探究者の育成」を主題に設定した。ここでいう「つまずきを照らす」とは、教員が、生徒の理解や学習の停滞を可視化し、学び直しや理解の深化の契機を生み出すことを意味する。また、「学びの探究者」とは、学習者自身が課題に気づき、思考を広げ、理解を深める主体的な学びを推進する学習者を指す。さらに、副題で示す「生徒理解を基盤とした対話的支援による学びの深化」は、教師と生徒の対話を通して一人ひとりの理解やつまずきを正確に把握し、その状況に応じた学習支援や工夫を行ったり、生徒同士での対話を通して共に学ぶ楽しさや有用性を実感させたりしながら、生徒が自らの学びに主体的に向き合える環境を作る取組みを意味する。

この研究を通して、本校が目指すのは、学びの中でつまずきを恐れず、自らの課題に気づき、思考力や主体性を高めながら成長できる生徒の姿である。その姿は、学校教育目標の「たくましく しなやかに」生きる力の育成そのものであり、教育実践と研究の両面でその実現に貢献するものである。

4 研究仮説

生徒理解を基盤に、対話的支援を行うことで、学習者は自らのつまずきに気づき、主体的に学びを深めることができるであろう。

【研究のイメージ】

